



答はひとつじゃない。だからみんなでお考えましょう！

「ミレニアム育児そーだんしつ」

■今回の悩みは…… 子どもを本好きにさせるにはどうしたらいいの？

うちの子（幼稚園児）はまったく本（絵本）に興味を示しません。図書館にもたびたび連れて行って読み聞かせようとするのですが、チラリと絵を見るでもなく、どこかへ遊びにいってしまいます。別に本好きでなくてもいいかな、と思ったりもしましたが、私自身、本が大好きで、本を読んでよかったと思うことが何度もありました。ぜひ、わが子にも、本好きになってもらいたいと思っています。何かよい方法があったら、教えてください。

外向きタイプの子と母には、図鑑的、ゲーム感覚的なものを

家の中でじっとしているより、外遊びの好きなタイプの子供には読み聞かせが難しい場合があります。そんな時は無理せず、図鑑や、ゲーム感覚のもので親子一緒に楽しめるものから始めてください。また子供は同じ本を何度も読んでほしがります。園で楽しんでいる本があれば買ってあげるのも良いと思います。村田 真理子さん 30代 メリーゴーランド子どもの本担当



満1歳になったころから読み聞かせを

満1歳を過ぎたころから、テレビを切って、一緒に本を開いて、その絵に喜んで感動したりする言葉かけをすることが、子どもに本の持つ面白さをインプットすることになると思います。また、普段の生活で親が本を読んでいる姿を子どもに見せることも良い刺激になると思います。

篠田 秀数さん 60代 幼稚園園長



時期尚早 無理に読ませることなかれ

“善は急げ”と言う言葉もありますが、タイミングも大切。幼児の興味はあるとき急に変わる＝外から見て成長するように思います。今は、お子さんの遊びを十分に見守ってやり、その遊びに関する本と一緒に楽しませてはどうだろうか。また散歩やハイキングなどに出かけるときには、虫、植物の参考本を持っていくのも本への関心を誘発するきっかけになるでしょう。

宮田 敬三さん 80代 孫（20代）



自分の子と母の名前に代えて読んでみる

本に出てくる主人公の名前を我が子の名前に代えて読んでみるのも本に惹きつける方法のひとつです。また、読んでいる途中で「これなーんだ」などと尋ねて、ゲーム感覚で読んでみる。本は、緻密な絵よりシンプルなもの、紙芝居のほうが好きなようです。

早志 光代さん 30代 主婦



☆☆☆ その世のご意見 ☆☆☆

●ほかに夢中になるものがあるのでしょうか。自分に必要な本を見つけるときはきつとくるはず。今は「夢中」の邪魔をしないで。藤田正明さん（フリー編集者）●無理に本を読ませることはないでしょう。両親が読書を好まれるなら、それだけで好条件でしょう。（匿名希望男性）●本のある、本を読む環境があれば、ふと気づいたときに本を読んでおられる子どもさんの姿があると思います。柴崎加代子さん（主婦）●生後半年から読み聞かせるといふ毎日。7、8歳ごろまでは自分でよく本を読んでいます。その娘も高校生となり、現在はスポーツ中心の毎日です。今後また本に興味を持つようになるかどうか、やはり本人次第だと思っています。柳原代さん（主婦）●本を読む際、子どもが興味を引くような身近な表現（この人、ババに似ているね、など）や、擬音語を使ってリズムにのって話すとすごく喜ぶ。林澄子さん●図書館のお話し会もご利用ください。宇佐美真由実さん（司書）●押しつけず、機会をみて読みやすい絵本等を与えてみては？（匿名希望男性）

お願い 「ミレニアム育児そーだんしつ」では、こんな悩みをこんな人に相談してみたいなど、ご希望、ご意見をお待ちしております。子どもセンター事務局までどしどしお便り下さい。



日永地区 ナイトパトロール

子どもたちに気軽に声がけができる

そんなおじさん、おばさんをめざして地域の大人たちが立ち上がりました。



風俗営業法により16才までのゲームセンター等への入場は保護者同伴でも午後6時までとされています。日永校区青少年育成会では地区に遊戯施設が増えだした頃より小・中学校PTAや子供会、民生児童委員、南警察署等に広く呼びかけ月3回のナイトパトロールを実施し積極的に補導活動を行っています。

子どもたちの夜の遊び場をまわって

ゲームセンター・カラオケ……時代と共に子どもの遊び場も変わってきました。いったい子ども達は外でどのようにすごしているのでしょうか。「とにかく一人でも多くの大人に子ども達の実情を見てもらいたい」と、日永校区青少年育成会では月3回のナイトパトロールを行い、1年間に110余名の大人が交代で参加しています。

土曜の午後8時、市民センターの駐車場に集まった10名の父母が、2班に分かれてパトロールの開始です。私達が同行した班が最初に訪れたのは天白共同墓地です。屋根付きの休憩場所にはたばこの吸い殻が散乱し、図書館の貸し出しバーコードのラベルがいくつも落ちていました。「たぶん本を盗んでラベルをここで剥がしたんでしょう」と、班のリーダーで唯一の男性である古川恵さん。その後、駅・カラオケボックス・小学校……とまわり、最後にゲームセンターに立ち寄りしました。



たばこの吸い殻などが散乱する高田地を歩くお母さんたち

胸にズシリと残った課題

パトロールを終えた皆さんに感想をお聞きすると、「私の子どももあのゲームセンターへ行ってたので、一度見てみたかったんです。こういう機会じゃないとなかなかできないから本当に良かった」と初めて参加したお母さん。他にも「小さな子ども連れがいたので驚いた」「最近の子はお化粧するからいくつかわからないね」という感想が聞かれました。そして剥がされたラベルやゲームセンターでの子ども達の姿は、私を含め参加した人達の胸にズシリと重い何かを刻みつけたような気がします。やはり大人が変わらなければ……そう感じさせたこのパトロールは、実際に子ども達の姿を見ることで、大人が子どもの居場所や子育てについて考える良いきっかけになったと思います。



おさな子連れの姿にびっくり

若い男女であふれかえり、会話もできないほどけたたましいゲーム音が響く中、よちよち歩きの子の姿が目に入りました。さっそく古川さんはこの子どもの親と見られる若い夫婦に声をかけ、帰るよう促しました。古川さんの話ではこのような親子連れをよく見かけるそうです。

次は若い女の子3人連れに声をかけました。年を聞くと「18才です」という答え。しかしどう見ても16才ぐらいにしかみえません。とりあえず18才未満は10時以降遊ばないように伝え、その場を離れました。古川さんによると、声がけは注意を促すもので決して強制するものではないとのこと。

